

「歯周疾患検診マニュアル」の改定の論点(案)

1. 用語について

- ・歯学教育の場では、「歯周疾患」から「歯周病」等、用語が変更されている。用語の変更について検討が必要ではないか。

2. 検査指標の考え方について

- ・検査指標については、現行では代表歯を検査対象とした CPI (community periodontal index, 地域歯周疾患指数)を採用しているが、2013年には全歯を検査対象とした CPI-modified が WHO で提示された。検査指標として、どのように取り入れるか検討が必要ではないか。
- ・歯周ポケット検査を行わない検診方法として、質問紙票や唾液検査等の研究が進んでいる。科学的根拠を含め、参考として記載することについて、どう考えるか。

3. 歯周疾患の病因論と分類について

- ・歯周疾患の分類(病態や病原因子等による分類)について、どう考えるか。

4. 歯周疾患と生活習慣及び全身疾患との関連について

- ・歯周疾患と生活習慣(ブラッシング、喫煙等)、全身疾患(糖尿病、循環器疾患等)の関連についての記載を充実するのはどうか。
- ・生活習慣改善に利用するため、検診票における質問項目を充実することについて、どう考えるか。
- ・参考として、特定健診との同時実施について記載することを、どう考えるか。

5. 保健指導方法について

- ・保健指導の内容項目、検診後の受診勧奨の方法についての記載を拡充するのはどうか。

6. 歯周疾患の動向について

- ・全体的に、簡潔に記載する観点から、特に、「疫学的動向」と「歯周治療の動向」については、参考程度の記載としてはどうか。

* 本資料は、現行マニュアルについて、平成 26 年 8 月より事務局が有識者にヒアリングした結果等をもとに、事務局において作成したものである。